

令和 8 年度第 2 回社会教育委員の会議

令和 8 年 6 月 2 9 日（月）

午 前 1 0 時 0 0 分 開 会

開催日時	令和 8 年 6 月 2 9 日	開会 1 0 時 0 0 分 閉会 1 1 時 4 0 分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室		
出席委員	議 長 笹井 宏益 委 員 藤森 光一 委 員 北澤 隆司 委 員 渡邊 ふき子	委 員 伊丹 文男 委 員 池田 佳代 委 員 小林 浩 委 員 鈴木 哲也	
説明のため出席した者の職氏 名	生涯学習部長 平野 純也 生涯学習課長 濱松 俊彦	図書館長 三浦 真 公民館長 鈴木 茂哉	
事務局	生涯学習係長 最所 拓也		
傍聴者 人 数	0 人		

日程	議 題	
第 1	議 題	(1) 会議録の承認について (2) 社会教育関係団体登録の手引きの策定について (3) 都市社連協ブロック研修会の内容について (4) 管外施設研修について (5) その他

笹井議長 皆さん、おはようございます。ちょうど定刻になりましたので、令和8年度第2回目の社会教育委員の会議を始めたいと思います。

本日は、金澤委員、新井委員より欠席の連絡をいただいております。

では、まず事務局より資料の説明をお願いいたします。よろしくお願いします。

最所生涯学習係長 本日の次第と、次第の2番に記載のあります資料1から5となります。そのほか、委員の皆様にお配りしております月刊こうみんかん6、7月号、花みずき、青少年科学の祭典報告書ということで、不足しているものがあれば事務局までお願いいたします。

笹井議長 それでは、議題に入っていきたいと思います。

まず1番目ですが、会議録の承認です。お願いします。

最所生涯学習係長 資料1を御覧ください。

2月25日に開催いたしました令和7年度第8回会議録をお配りしております。事前に皆様に修正いただいたものを、今こちらに御用意してございます。何かあれば、また後ほど、なければ、このままホームページに公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

笹井議長 事前にお目通しいただいているということで、これで承認をいただいたということにさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、この資料の議題の2番目です。社会教育関係団体登録の手引き(案)につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

最所生涯学習係長 資料2と資料3が今回、議題ということになっております。こちらを御覧ください。

議題2ということで、社会教育関係団体登録の手引きの策定につ

いて、御説明いたします。

まず、社会教育関係団体等というところですが、市内に活動拠点を置く、構成員が10名以上で、社会教育活動の振興を図ることを主な目的とした団体ということになってございます。現在、93団体が生涯学習課に申請しまして、登録されております。団体登録につきましては、3年に1度、一斉更新登録を行っております。令和6年の第1回の会議において、令和6年から令和8年度における社会教育関係団体の一斉更新についてというところで、御報告をこちらの会議でさせていただいたところであります。

この社会教育関係団体の主な団体としましては、社会教育委員の本会議の推薦団体でもある文化協会、文化連盟、国際ソロプチミスト東京という団体が挙げられます。

また、令和8年度に策定いたしました第5次小金井市生涯学習推進計画では、市民による知の循環の推進を掲げております。これは、教育基本法第3条に掲げられている生涯学習の基本方針に立ち返り、市民一人一人の学びの成果が広がることで、まち全体を豊かにする生涯学習の推進をしていくというものであります。これを実現するため、社会教育関係団体におきましては、社会教育における知の循環の一助となつていただく。また、率先して知の循環を実践いただける存在、団体であるということが重要と考えております。

資料2、社会教育関係団体の登録要項を御覧ください。第2条、団体登録に必要な基準としましてというところです。（2）に、継続的、計画的に社会教育に関する事業を行うことを主たる目的としまして、事業の成果が期待できる団体と記載されております。

また、資料3を御覧ください。資料3の今回新たに策定しようとしています社会教育関係団体登録の手引き（案）をめくっていただいて、1ページの2番、社会教育に関する事業の説明においてというところです。2番、社会教育に関する事業とはということになります。現在、要綱に記載しております文言に加えまして、一般市民等を対象に実施する事業でという文言を加えまして、これを継続的、計画的に行うことで事業の成果が期待できるものとしております。

ここで一般市民等を対象とした事業とはということですが、今まで個々が蓄えた知識や見識を市民に還元する、生かすことができるような、一般市民を対象とした作品、講演会などを年1

回実施するということと想定しております。先ほど申し上げました第5次小金井市生涯学習推進計画の基本方針の、市民による知の循環を推進するため、また、その実効性を担保するため、これから登録していただく団体、更新を迎える団体に対しまして、この手引きを使いまして、知の循環を担う団体として事業を実施していくということを周知して、御理解いただくよう努めていきたいと思います。今回から登録に団体に対して、例えば講演会、作品展などを実施するということを1つ条件として新たに明記したこの登録の手引きを今回から利用しまして、計画の実施に努めてまいりたいというようなこととなっております。

説明は以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

すみません、初歩的な質問で。手引きは初めて作るのですか。

最所生涯学習係長 初めてとなります。今回、策定の手引きということで、計画を策定しまして、知の循環というようなことが今回の計画の中の趣旨というふうなところですよ。この計画の趣旨を実践するために、社会教育関係団体におきまして、団体登録する際、知の循環を条件というか、今までもちろんこういうことをやっていただくというところだったと思うんですけども、策定の手引きを用意しまして、さらにここで作品展等を実施するというようなことを明記して、より知の循環の社会教育関係団体になっていただくことをお願いしたいというところで手引きを作成したということになります。

笹井議長

計画を踏まえて作った手引きだということですね。

最所生涯学習係長 そうですね。

笹井議長

分かりました。ありがとうございます。

知らなくて申し訳ないんですけど、これは手引きの問題じゃなくて登録要綱の問題ですけど、登録した団体が何かまずいことをしたみたいなときは、登録って取消しはするんですか。

最所生涯学習係長 そうですね。要綱にあるとおり、承認の取消しというような形

で、第7条に、登録基準に適合しなくなった場合はということで、団体に通知して、承認を取り消すことができます。

笹井議長 なるほど。悪いことじゃなくて、形骸化しちゃって何もやっていないみたいな場合も同じですね。

最所生涯学習係長 そうですね。3年に1度、登録するというような更新作業があるんですね。形骸化というところがあるかどうか分からないですけども、実際に実施されていない団体においては、例えば後任がいない、高齢化が進んでなかなか事業が実施できないという団体は、登録の際に、更新をやめるような団体さんも幾つかいらっしゃいます。

笹井議長 なるほど。ありがとうございます。皆さん、御質問とか御意見がありましたら、ぜひ出していただきたいと思います。

小林委員 小林です。すみません。事業の成果が期待できるものというところが、かなり漠然としているんですけど、大体どういうイメージで。

最所生涯学習係長 事務局です。今回、手引きを作成したというところもありまして、一般市民を対象とした事業をというようにところをきちんと明記したというところで、こちらについては、作品展や講演会といったところを事業として想定しているというところなので、そういうことを実施したというような部分。これに限らず、社会教育のあらゆることがあるんだと思うんですけども、分かりやすいということであれば、そういった講演会、作品展等を実施していただくというようにところを事業の成果と考えております。

小林委員 ワークショップとかも含んでいるという感じですね。イベントとか。

最所生涯学習係長 そうですね。一般市民と一緒にいうようなところで。

小林委員 分かりました。

笹井議長 ほかにいかがでしょうか。

北澤委員 すみません。

笹井議長 はい、どうぞ。

北澤委員 そうすると、今まで手引きというものがなかったという。

最所生涯学習係長 そうですね。今回からです。

北澤委員 そうすると、この要綱のところを分かりやすくというか、継続して申請する場合にはそういったものというところだと思いますが、いろいろな事情によって、年1回の一般市民を対象にした事業というところができない。それが、もしかしたら2年に一遍だったとか、過去、継続の場合は3年に1度なのかな、というわけですね。そうすると、そこのところをどのぐらい厳密に計るのかというところが、恐らく……。いや、もう3年間、毎年ちゃんとやってなきや駄目というふうなものにするのか、それは特段の事情を加味するのか。

 そこら辺の線引きのところって結構曖昧なんだけれど、私どもの団体を含めて、やっぱり登録団体にとっては結構大きなポイントというか。継続できるか、できないかみたいな。継続というか、登録するか、しないかみたいな。そういうところで、結構大きなハードルになるかなと思いますが、そこら辺についてはどのようにお考えですか。

最所生涯学習係長 現時点では、作品展や講演会というような、分かりやすく一般市民に係る事業というようなところで考えております。団体さんの活動内容によっては、なかなかそういう事業も難しい場合もあると考えておりますので、個別の団体さんと相談しながら、一般市民と関わるような事業をやっているというところが少しでもあるのであれば、そういったところをフォーカスしながら認めていくという方向ではあります。

 更新の団体様においては、3年に1度というようなところで、次回からで令和9年度からという形で更新の手続に入るんですけれ

ども、今現時点で考えているのは、ちょっとまだこれは確定ではないんですけれども、3年間のうちに次の更新、要は9、10、11年の更新のうちに、次の3年間の期間において、何らかの一般市民を対象とした事業を何とか構築していただきたいというふうに考えております。

以上です。

笹井議長 よろしいですか。

北澤委員 はい。

笹井議長 第2条に定める基準に適合するかどうかの判定が難しいものについては、社会教育委員の会議の意見を聞いてと要綱に書いてあって、判定が難しいものを社会教育委員会会議で判定しろというわけ。ということ、僕もその基準の問題が気になってはいたんですけれども、変な言い方なんですけれど、全く活動していないというのは別にして、ある程度それなりの活動をちょっとでもしてればいいのかという気がしていますので、その辺は、事務局なり社会教育委員会を信頼していただきたいと思います。

北澤さん、いかがですか。

北澤委員 はい、ぜひそこは。多分、やらないというよりかは、やりたくてもできなかったというようなこともあるのかなと。だから、先ほど事務局が言われたように、次の3年間でそれをやるべく、きちっとそのところを計画していただくということで、私はいいかないと思っています。多分これの趣旨としては、全く活動していないような団体については、やっぱりそのところは、要件を自動的に付与するというよりかは、少しちゃんと活動してくださいねということのかなと思っているので、だから、それを認めないとかというよりかは、やってくださいねという趣旨なのかなというふうに私は理解しました。

以上です。

笹井議長 ありがとうございます。地域での活動というのは、突然、例えば代表者が病気になっちゃったとか、いろいろな事情でできなくなっ

ちゃった、一時中断でまた復活するということもよくある話なので、その辺は柔軟にということだと。ありがとうございました。

ほかにどうでしょう、御意見どうぞ。

渡邊委員 お聞きしたいんですけど、要綱をつくっていくことに対して、しっかり活動を進めていくということは、市民にも分かりやすい活動をしていくということなんだろうなと思ったんですけど、ちなみになんですけれど、新たに社会教育団体に登録したいというような団体さんというのはいらっしゃるのでしょうか。

最所生涯学習係長 事務局です。社会教育関係団体に申請をしたいという団体さんは随時いらっしゃるので、今回こちらの策定の手引きというスケジュール感というところなのかなと思うんですけども、この社会教育のほうで御承認いただければ、適宜、手続を取りまして、今回新たに社会教育関係団体に申請される団体様からこちらの手引きを活用して、一般市民の事業というところも、ヒアリングしたり、記載していただいたりというに思っております。

笹井議長 よろしいですか。渡邊さん。

渡邊委員 渡邊です。そうしますと、大体市として何団体ぐらいが理想的というか、そういうことは特にはないのでしょうか。これから増やしていこうということですか。

最所生涯学習係長 そうですね。社会教育関係団体ということであれば、当然社会教育を実践していただける団体と考えておりますので、私どもとしては、より多い団体さんがいらっしゃるほうが、より生涯学習、社会教育が推進できると考えておりますので、多くの団体さんに御申請いただくということは、こちらとしてもうれしいことと考えております。

渡邊委員 ありがとうございます。

笹井議長 ありがとうございます。
じゃ、小林さん、どうぞ。

小林委員 あとは、そういう団体で、例えば任意団体というか、そういう感じで自分で活動してますと、登録したいんですけどどうしたらいいですかという。要は、相談とか、あと、10人いないんですけどどうしたらいいですかとか、そういった個々の相談に支援とか寄り添うというか、そういった感じの取組というか窓口というか、どの辺でやろうかとかいうのはイメージはありますか。

最所生涯学習係長 事務局です。社会教育関係団体の登録要件がございますので、その要件に合致していると、そちらについては生涯学習課の窓口で御相談を受け付けたいと考えております。ただ、小林委員が意図されている、活動拠点がないんだけどとか、10人に満たないんだけどというようなところについては、10人いれば大丈夫ですというようなお答えになりますし、いないと、ちょっと登録の要件に合致しないですねというようなお答えになってしまうのかなというふうなところで、窓口でそういう御相談については受け付けたいと考えております。

小林委員 ありがとうございます。多分そういうふうにはなるんだろうなと思うんですが、そこに対して、あれだからこうですよ、ばすっと切ってしまうというのが、じゃ、知の循環をもっと促進することにつながるのか、つながらないのかというところの根本のところで考えると、これはこれで一つのやつだと思しますので、これはこれで多分そういうことになるんだろうと思うんですけど、これだけじゃちょっと足りないよねという認識は持っていていただきたいというのが私からの意見です。

笹井議長 ありがとうございます。
ほかにいかがでしょうか。
大体こんな感じでよろしいですかね。なければ、これでよろしいというか、承認というか、これで進めていただくということにしたいと思います。よろしいですかね。
分かりました。じゃ、御質問が幾つか出て、事務局からお答えいただいたということで、この形で進めていっていただきたいということにしたいと思います。皆さん、ありがとうございます。

それでは、次に進ませていただきます。議題の（３）、都市社連協ブロック研修会の内容についてということで、これを事務局からお願いいたします。

最所生涯学習係長 資料４を御覧ください。

こちらは、前回の会議の中で宿題というようなところで実施計画書の御提出をお願いして、そちらを提出していただいたものを一覧としておまとめしてございます。本日は、こちらの計画書一覧に沿って、御提出した委員様から一つ一つ御説明いただくというようなところをお願いできればと思っております。もし可能であれば、本日の会議で、じゃ、こういうことで進めていこうかというようなところまでお話ができればと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

笹井議長 この資料で、幾つか研修会に関する資料があります。

最所生涯学習係長 資料４が一覧表となっております。別紙として、こちらは小林委員、鈴木委員なんですけれども、その次にあるホチキス留めのものが小林委員です。その次の第５ブロック研修会（案）別紙という１枚両面刷りのものが鈴木委員の御提出された計画書となっておりますので、３枚ずつで、３部セットというような形で。

笹井議長 分かりました。

最所生涯学習係長 大丈夫ですか。

笹井議長 はい、了解です。

最所生涯学習係長 まずは資料４の新井委員のというところで、今日欠席なので、私のほうで代読させていただきます。

こちら、方法、テーマ、内容というところで掲載されていまして、方法については事例発表・グループワーク、テーマについては「子どもの声を聞く～子どもの声から小金井の未来を考える～」というところになってございます。事例発表１として、「子どもの声を聞く」、小金井市教育委員会が挙げている子供の声を大切にする方針、

その具体的な方法を、各校の事例を発表して、その中で子供の考えを知り、今後のまちづくりのヒントにつなげていくということになっております。事例発表2として、学校教育から社会教育についての円滑な関わり方法を検討するということです。ちょっとこれ、文字があれなんですけれど、グループで話し合いをしたいというようなことで御提案を新井委員からされております。

以上です。

笹井議長 分かりました。資料4について、計画書の案ですね。委員の皆さんに出していただいてという部分で、今、新井委員の話は事務局からしていただきましたが、池田さんからちょっと説明をして。

池田委員 まず、方法が、多分、私は講演じゃなくてディスカッションと、あと発表みたいな感じにしたと思う。

最所生涯学習係長 すみません。

池田委員 分からないです。ちょっと間違って書いちゃった可能性はあるかもしれないんですが、一応自分としてはディスカッションと、あとそのディスカッションの発表みたいな感じで書きました。お題がわくわくしたことをということなので、話し合いする中で、自分にとってのわくわくをまず話したほうがいいんじゃないかなと思って、テーマは「自分にとってのワクワクとは？」にしました。内容は、そこに書いてありますように、わくわくして参加したくなるような社会教育は自分にとって何かというのをグループで、こういうのがあったら自分だったら参加するというようなことを意見交換して、それを、グループでまた代表が発表すると結構内容が変わっちゃったりするので、本当は、理想であれば1人ずつ発表したほうがいいのかもしれないんですけれども、多分時間がないと思うので、グループ内での発表、話し合いの内容を発表という感じです。

以上です。

笹井議長 ありがとうございました。
では、すみません。伊丹さん、お願いします。

伊丹委員

はい、伊丹です。勝手に名指しをさせてもらって申し訳ないんですけども、小林委員がやっております三小おやじの会というのに私がめちゃくちゃほれちゃいまして、それで、お手伝いするにも年を取って動けないので、お手伝いはできないんですけども、皆さん御存じかどうか。三小。詳しくは後でまた小林委員に聞いたほうがいいんじゃないかなと思うんですけど、三小の学校がオーケーを出しているのかどうかということ。まず、校庭がどうだとか教室がどうだとかというのは学校はうるさいから、そこら辺のところはどうなのかなと思いながら。でも、すばらしい活躍をしている。

何をやっているのかというのは、私はフェイスブックだけでしか分からないんですけども、子供たちを集めて、新聞紙を丸めて、親が一緒になってチャンバラをやったりして、それとか、街の道路にお絵描きをやって、お絵描きだけやるのならいいんですけども、その後、また大人と子供が一緒になって道路をきれいに清掃するというようなことを。言葉を換えて言えば、おせっかい焼き。大人のおせっかい焼き。

これが今の世の中、どこを、この小金井だけじゃなくて、やっぱりおせっかいというものが必要なんじゃないのかなと。特に私、自分が住んでいる前原町四丁目では、大体世帯主がもう70歳、80再になって、家が壊れて潰れて、若い方が入ってきた。そうすると、年寄りと若い方のコミュニケーションとか全然ない。昔だったら、向こう3軒両隣でおせっかい焼きというのが必ずいたような気がするんですけども、そういったものが見られない。それを何とか、小林委員を中心として、例えばステージ上でチャンバラをやらせてもいいんじゃないのかなと。それが終わった後に、みんなで、それが何で必要なのかというようなディスカッションに持っていったら私は面白いんじゃないかなと。昨年の調布での劇がございましたけれども、ああいうような形で、ただ講演とかディスカッションだけではなくて、実演も入ったもののほうが興味を持たれるんじゃないかなと思って、勝手に。すみません、小林さん。申し訳ございません。

小林委員

いえ。楽しんでいただいております。

伊丹委員

以上です。

笹井議長

いいですか。ありがとうございます。

一応、じゃ、皆さんの御提案を聞いてからと思います。

北澤さん。

北澤委員

北澤です。私は、特にあまり具体的なものというよりかは、まず内容的にはやっぱり講演と、講演だけではなくて、何となく意見交換ができるような場があったほうがいいかなと思ったのと、今年で言えば、先ほど小金井市のお話をいただきましたけれども、あれを策定したというところもあるので、そのテーマに沿った内容の講師の方を呼んで講演をやっていただいて、それに基づくグループディスカッションをやったらいいかなと。特に講師とかそこら辺のところは、あまりイメージが浮かびませんでした。そんなような形で考えました。

以上です。

笹井議長

はい、ありがとうございます。

それでは、小林さん。

小林委員

すみません。実は都市社連協の話をやる前に、小金井市は予算をやるんだったら夏までに何か提案を出さないとと思って。コミュニティ力アップって、要は、さっきも言いましたけれど、知の循環を起こして、じゃ、次どうするのといったら、人がつながったり、地域のことを考えたりって、関心を持ってもらうみたいのところ。最近だと結局タコつぼに入っちゃって、家族、家族が。地域と関わるというのはお金を払うことでしか関係性を結べないみたいな感じになっていて、無償でおせっかい、この人、気持ち悪いと言われるような時代にもうなりつつあるので、そういったところへは、そうじゃないよね。お金を介さないお付き合いって、結構面倒くさいけれど楽しいよねとか、面白いよね。そこに知の循環だったり取組の循環だったりって、例えば、図書館とか公民館とかがやっていることがうまくきっかけになればいいなというところがちょっとあったので、そういったことをやっているところをいろいろと出してみました。例えば、鈴木さんだったら多分コミュニティスクールのことにすごく興味あるだろうとか、ここにいる方の顔を思い浮

かべながら一つ一つちょっとネタを、こんな感じでどうだみたいな感じでやってたので、この中から見つけて講演をやって、みんなで話してみたらどうだというような意味合いで、ちょっと別紙ということを出しちゃいました。

個人的には、多分、皆さん話をしたほうが参加感はあるなというのはこれまでの意見でもあったし、僕も参加してあれだったんで、何かきっかけになるようなお題設定をぼんとやった上で、それぞれ皆さんどうなんですかねという感じでやると面白いんじゃないかなとか思っております。

ちなみに、4番の小田圭介さんって方は地域づくりアドバイザーをやっている。社会教育委員でもあるんですけど、彼がやる講演だと、多分3時間ぐらい取って、2時間でもいいらしいんですけど、静岡方式といって、何がわくわくしますかとか何が楽しいですかと。団体さんを全部集めて、それぞれ情報交換して、それで元気のエールをするというのをずっとやっていらっしゃっているのがあったので、そういう意味では話をするというのはすごくいいことだなと思いました。

僕は別にどの人をどうしたいというわけでもないんですけども、皆さんがやっている講演というか、何かきっかけ、話すきっかけを1つつくった上でみんなで話をする。それを2ラウンドにするのか、1ラウンドにするのか。そこはちょっと置いてという感じだと思います。だから、例えばですけど、今、知の循環とずっと最所さんがおっしゃっていたので、知の循環をやったら何がいいのかとか、知の循環をやるにはどうしたらいいのかとかって、いろいろ設定の仕方はあると思うので、そういった形で、何か第5次の中からいい感じで持ってきて話をしたらいいんじゃないかなということは考えておりますので、これはこれでちょっと見ておいていただければという話です。後でPDFで配ってくださるみたいなので、リンクもたたけると思うので、またちょっと見ていただければ。

こっちは、社会教育委員だけじゃなくて、市役所の方も行政の方も市民の方も一緒に勉強したらどうだという提案で、これはちょっとまた別の機会に。

以上です。だから、全然その枠に載っていないので、ごめんなさいという。すみません。言い訳です。

笹井議長

分かりました。ありがとうございます。

それでは、続きまして、鈴木委員からお願いします。

鈴木委員

鈴木です。ヘッダーに第5ブロック研修会（案）別紙と書いてあるものが私の提案です。今、自分自身は、学校と地域リソースを一生懸命つなごうと努力しているところなんですけれど、個としてつながっても、その後、なかなか広がらないなというのはもうずっと感じているところで、学校といろいろなことですり合わせが相当大変であるという。だから広がらないのかなとか、管理職の考え方とかもありますし、感じているところです。

それで、今回、頂いた、資料6として前回お示しいただいた昨年度のブロック研修会の内容を見てみましたけれど、やっぱりどの自治体でも人つなぎに苦労されているんだというのが率直な感想です。今回の研修も人をつなぐということを主題にするのがいいと考えて、幾つかいいかなと思う方の講演とその後のトークをテーマに沿うように、対話とハーモニーでしたか、幾つか考えてみました。

まず、構成としては、第1部は講演会をやっていただいて、第2部はテーマに合わせたグループ対話というところで、よくあるパターンのものです。次もよくあるパターンのものなんですけれど、各自治体より1人ずつ委員を選んで混成チームになってもらって、その町でやっていることのいい取組みたいなもの、人をつなげるためにやっているいい取組みたいなものとか、課題みたいなのを話し合ったらいいんじゃないのかな。

ただ、今回ちょっと違う視点を入れたらいいんじゃないかなと思っているのは、毎回僕もこういうものに参加するんですけれど、そこで参加して話して終わり、続きがないということになっちゃって、さっき池田さんの話にも出ていましたけれど、グループとして発表して、それで終わり。だから、一人一人が発表したほうがいいんじゃないかなというようなことをおっしゃっていましたが、僕もそう思っています。その場限りの会議の話にならずに、各市の委員がそれを持ち帰って、人をつなげるために自分の町で何ができるかを考えて、後日、それぞれの社会教育委員の会議で各自が提案するなり何なりして、話し合ってみることを進めるというところまでをやったらいいんじゃないかなと思っています。そうしたほうが、ただ集まって話をしました、何時間か会ってさようならというより、

一層研修の効果が上がるのではないかと思います。

これが概要です。講師としては、そこへ書かれているとおり、小林さんにもありましたけれど、現大正大の教授の牧野篤先生ですね。それから、元小学校長で現八王子学園なかよし幼稚園の清水弘美先生。そこへ書かれているテーマでお話いただくということで、あとは、一番ニーズに合うんじゃないかなと思うのは、たしか第七中学校の宮本尚登校長がいいんじゃないかなと思っています。

講師とテーマ、提案理由はそこへ書かれているとおりなんですけれど、牧野先生は、僕が初めて社会教育委員になって参加させていただいた関東甲信越静の大会の基調講演が牧野先生でした。社会教育というものが全く理解できていない状態で行ったんですけど、ふだん地域で感じていることを順を追って話してくださって大変勉強になったので、初めて委員になった方も聞かれたほうがよいのではないかと思います、提案します。

次の、人生に失敗なんていないというテーマでというのもそこへ書かれているとおりですけど、清水先生は、もう一つテーマとして書かせていただいた社会教育、地域教育、学校教育というもののテーマでもいいかなと思っています。先生は、八王子の式分方小学校へ赴任されたときに、もう全く朝礼が整列ができないというぐらい学校崩壊していた学校を2年で立て直したんですけど、このときに非常に多くの地域の方が協力して下さって、学校に関わって下さったというお話を、南中で講演して下さったときにお話いただきました。そのときに、どういうふうに地域や保護者が学校に関わったのか、それで成果を出すことができたのかということを開かせていただければ、各地域でお役に立つんじゃないかなと思っています。

3番目の宮本尚登先生は、赴任する先々で地域の人や企業との連携を、もう街を歩いて模索して、数々のすばらしい結果を残されているんですね。この間ちょっと御説明しましたが、子供たちが地域の調べ学習をするといったときに、普通は学校内で発表して終わりだと思うんですけど、せっかく一生懸命調べたのに、学校だけで発表しているのはもったいない、地域の人にも聞いてもらったほうが良いということで、学校最寄りのモノレールの駅の構内放送で、中学生が地域の歩みについて発表するという。それ以外にもいっぱいいろいろなことをやっているんですけど、調理実習に餃子

の王将に来てもらうとか、本当にちょっと変わったことをやっている人で、それぞれに成果が出ているのでいいんじゃないかなと思っています。グループ対話はそこへ書かれているとおりです。

宮本校長が来ていただくときにだけ、前々任地の西東京の明保中学校で宮本校長の部下でいらした、今、南中の西田校長が小金井にいらっしゃるので、これは別に社会教育委員の会議として話し合わなくてもいいんですけど、どこかでちょっと会って、これも話も聞いてもらって、今後、小金井でもできる取組というようなものに、有志のみの参加でもいいので、社会教育委員と学校の校長、宮本先生と話し合ってみたら面白いんじゃないかなと思う提案です。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

いろいろ今提案していただいた各委員に質問とかあるかもしれませんが、全員の話聞いてからにしたいと思います。

藤森委員。

藤森委員

藤森です。私が出した計画書は、地域活動に生きがいを見いだすというテーマでグループワークをするという感じで、特に講師はあまり思いつかなかったので出していないんですけど、生涯学習とか人生100年時代みたいになったときに、学ぶことが楽しいと思えるようにしていくことがやっぱり大事なんじゃないかなと思っているんですけど、一方で、お金を稼がなきゃいけないから、お金が稼げない学びをやらないという人がいっぱいいるという状況で、僕は、自分が事業をやっているというところから、学んだことでお金が稼げるとか、自分が持っているリソースを洗い出してみたら、お金を稼ぐ力が実はあったみたいなものが学びの動機になったり、その後の学びにつながるというかなと思っています。

生きがいチャートという、結構メジャーな、キーワードで出てくるんですけど、その生きがいチャートというのを作って、自分の好きなこととか、自分の得意なこと、自分が報酬を得られそうなもの、特技みたいなものを書いていくと、最終的に一番真ん中に生きがいというのにたどり着くというチャートがあるんです。そういうのを、1人で作ってもいいですけど、みんなでわいわいしゃべりながら作っていく。要は、自分はこんな得意なことがあります、こ

んな好きなことがありますといってみんなの前で書いて発表すると、その次に、例えば好きなことと得意なことの重なったところに情熱という項目があるんですけれど、じゃ、あなたのこの情熱に当てはまる部分はこれじゃないのみたいなのをしゃべりながら、もしかしたらあなたはこういうのが向いているのかもねとかというのをみんなでしゃべることによって、インプットとアウトプットを繰り返すことをしたら楽しいんじゃないかと思って提案しました。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

じゃ、渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

私は、地域資源を生かし、もっとよく学びの芽を育てるということで、身近なところでとても頑張っている取組があるので、こうしたところをみんなで事例発表を聞きながら、またグループ討議を行ったらどうかなと思って、青少年のための科学の祭典 in 小金井というのをテーマに掲げたらどうかなと思いました。

皆さんのほうがよく御存じかもしれませんが、20年ほどやってきているこうした取組が市内にあって、小金井らしい大学がたくさんある中で、そうした学校も巻き込みながら、地域資源といいますかね、そうした方々のたくさんの団体が参加してくださっている中で、子供たちも、また大人も学びにもなりますし、本当にわくわくするような取組というのがさらに続いていくといいのかなと思って。なかなかこういった取組は続いていかないものだというようなことを伺ったことがあるものですから、発展しながら、小金井らしく続けていけたらいいなと思いますし、また、他の地域にも参考になるんじゃないかなということで、取り上げてみてはどうかと思いました。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

いろいろなアイデアを出していただきまして、ありがとうございました。これ、どうやってまとめようか、実は非常に困っているんですけれども。

ちょっと最所さんにお聞きしたいんですけど、第5ブロック研

修会の参加予定者というのは、基本的にはどういう人？

最所生涯学習係長 事務局です。今回のブロック研修会の概要というところをちょっとお話しさせていただきたいと思います。

まず、第5ブロックなので、ブロックの構成市であります、小金井、府中、調布、武蔵野、三鷹、狛江だと思います。6市の社会教育委員の方が今回の参加者の対象になりまして、五、六十名ぐらいというところ。大体来るのは半分ぐらいなのかなというふうには想定しますので、三、四十名ぐらい、30名ぐらいはいらっしゃるといような形で想定はしております。

場所はもえ木ホールというところで、小金井市の隣の、以前会議もやったところですが、結構大きな施設で、大体60、70名ぐらいはちゃんと座れるようなところを用意しています。そこで、11月6日金曜日の午後に予定しています。そちらで実施するというふうに考えております。時間は1時半から4時の2時間半ぐらいを、ほかの団体も大体そのぐらいを目安にやっておりますので、1時半スタートで4時終了の2時間半の内容をとというところで皆様にお考えいただければと考えております。

笹井議長 なるほど。そういうことだそうです。だから、講演プラスアルファ、ディスカッションというのもできるわけですね、会場的には。ただ、例えば講演者がオンライン参加というのはできない？

最所生涯学習係長 オンライン参加。投映することも恐らく大丈夫だと思います。前方にスクリーンを用意しまして、プロジェクターでTeamsとかのようなところのプロジェクターとつないで、講演者の画面を映す、それを実際リアルで来られている皆さんと共有するというようなことは大丈夫かなというふうに考えています。

笹井議長 そうかそうか。インタラクティブ、例えば、リアルに集まっている人たちがオンラインの向こうの人に質問して、向こうの人が答えるみたいなことは可能なんですか。

最所生涯学習係長 そうですね。それは大丈夫です。

笹井議長

分かりました。ありがとうございます。

こういう前提なんですね。だから、基本的に社会教育委員の人が集まってくるんですよね。市民のプラスアルファの人がいるかもしれませんが、社会教育委員。しかも市外の人にも来られるということ。これを前提にちょっと考えていただきたいんですけれども、それぞれ御提案につきまして、何かもし質問とかありましたら出していただいて、その提案をした方に答えていただこうと思いますが、いかがでしょうか。

すみません。じゃ、藤森さん、質問なんですけれど、この生きがい4原則とかチャートとかワークの仕方みたいなものというのは、何か確立したものがあるんですか。

藤森委員

そうですね。あるんですけれど、よく研修の会社とかがやるようなものだと、そのやり方で勝手に研修をやっちゃいけませんよとか、要は会社が提供しているものとかだったりするとちょっとあれなんですけれど、どこも大体似たようなやり方があるので、基本的な進め方というのはあります。ネットで調べて出てくるので。

笹井議長

なるほど。分かりました。ありがとうございます。

どうぞ、ほかにそれぞれ御質問があれば。

池田委員

池田です。今思ったんですけれど、質問じゃないんですけれど、今のお話を伺って、ディスカッションにループリックみたいなものって、そのループリックに沿って話すみたいなほうが、もうちょっと現実的かなと思いました。

笹井議長

もう少し分かりやすく。

池田委員

ループリックといって、ディスカッションで話すべき、含むべき評価基準。評価しないんですけれど。よく学校とかにあるんですけれど、評価基準みたいな、これに沿って話せみたいな。同じような感じだと思うんですけれど、その内容を明確に示したほうがディスカッションしやすいかなと、今、一瞬思いました。

笹井議長

なるほど。それはそうですね。講演してもらうかは別にしても、

大きなテーマがあって、その個別の論点というものをみんなで共有していったら、それに沿って議論してくださいと。そういうことなんですね。

池田委員 そうですね。

笹井議長 なるほど。

小林委員 小林です。小金井の社会教育で困っていることとか、これからほかの市の人も入れていろいろと意見を聞いたり、知見を集めたりというのが多分、研修ってそういうものだと思うので、何か小金井市の第5次の社会教育でこういうことをもっとやりたいよね、だけど、これが足りないよねとかという課題とか、それを何か1つ探求したいな。要するに、これをどうやったら実現するんだろうとか、皆さんもこれ、困ってませんかとか、そういうものにちょっと自分の意見とか。

これ、結構どうやるというのがあったりとか、こういうふうにするんだという根本のところだったり、レイヤーが結構ばらばらだったりするので、ちょっとそこに寄せて考えてみたら、何か1つ出てくるのかなとかいう気はちょっとしましたけれどね。何でこれやるんだっけというところで。研修会、何でやるんだっけ。多分、ほかの市の知見とか経験も含めた上で、僕らで何か学びたいよね、何か探求したいよねというためのものだったりするじゃないですか。そうすると、じゃ、何を知りたいのかなという。例えば伊丹さんだったら、おせっかいとかいうのをどうやって今風に広げたらいいんだろうみたいな感じの言い方なんじゃないですか。

生きがいというのは、多分、人生100年時代の社会教育ということで、生きがいというのは、じゃ、それ、どうやったら人と共通点が見つかる。生きがいというのは、突き詰めると実は人につながるんだよみたいな感じの言い方なのかなとか。そういう目線でちょっと自分のをもう一回考えてみると、何かいいのかなと一瞬思ったりはしたんですけど。鈴木さんだと、属人的だよね、学校と地域の関係ってみたいな。そういう感じかなと。

鈴木委員 どうですかね。

小林委員 何をするとやってしまうと、大体みんなばらばらになってしまうので、何のためにこれやるんだっけともう一回考えてみて、そこにつながるものって何だろうみたいなふうに考えてみると、何かいろいろと少しまとまってこないかなと思って、ちょっと一瞬。

池田委員 そういう問題提起をして問題を解決するみたいな。問題解決。

小林委員 だから、小金井市、例えばこれで困ってますとか。

池田委員 じゃ、それについて……。

小林委員 社会教育委員として、我々はこののをすごく悩んでいるし、どうやったらいいんだろうと考えていますと。やり方としてこういうのがあって、これじゃ足りないなと思っていますとか。第5次、つくったものはいいいけれど、これをどうやって実現させるかというところに我々はこれからぶつかっていくんですけど。それに対して、何か皆さん、いいアイデアないですかね。もしくは、こうやったら行くんじゃないかと、ちょっと試してみませんかみたいな。そこに、何か分からないですよ、藤森さんのやつがうまく絡んだりしたら面白いなとか、じゃ、生きがいについて考えたら何かつながるんじゃないかとかというふうになるんだったら、それもそれでいいし。

池田委員 問題は1つじゃなくて、幾つか。

小林委員 1つか2つぐらいあって、それがいろいろ出てくるんだろうなとは思うんですよ。例えば、ちょっとすみません、やりやすいのと言うんですけど、おせっかいというのを広げるためには、仕組みもあるだろうし、それからこういう人がいるよねとか、こういう場が必要だよねとかと、いろいろ出てくるじゃないですか。それは各グループでいろいろ話をしてもらえば。例えば、おせっかいが広がるにはどうしたらいいんだろう。おせっかい自体が駄目だよねとかね。じゃ、今風にアップデートしなきゃ駄目だとか。いろんな手があると思うんです。それは各グループの人たちが、知見というか、いろいろな目線で話をしてもらえばいい話で。ただ、それに対していろ

いろな材料が出てくるんだろうなと思ったりして。

池田委員 その問題は、じゃ、小金井市で決めるということですか、今回は。

小林委員 そうですね。だから、お題はこっちで決める。当然ホスト市だから決めていいんじゃないのとかちょっと一瞬思ったんですけど、いや、それをみんなでちょっと知恵を貸してくださいみたいな、小金井も困っています、教えてみたいな感じでやったらどう？ って。

笹井議長 個別の論点ですよ。ディスカッション方式というかグループワーク方式は賛成で、何らかの形で、講座とかセミナーというのは、一般市民向けに対して教養を得てもらうという点ではすごくいいんですけど、社会教育委員って、社会教育行政の一翼を担う人ですよ。そういう人がみんな集まって、それぞれ経験とか知恵を持っているだろうから、みんなで何か出し合って、それぞれまた持ち帰れるような場にできたらなとは思っています。

これまでの都市社連協を見ていると、どうもその議論が少なく、市民向けの講座と同じように考えちゃっていると思うので、ちょっと違うんだよ。社会教育委員の人がせっかく時間を割いて集まってくれて、それぞれ経験があるからみんな委員になっているわけですから、何かそれから得られないかなとはちょっと思っていたんです。そういう方式を取りたいというのは、多くの皆さんがそういうふうに答えていただいたので、それがいいのかなとは思っています。

小林委員 最大公約数はこんな感じ。

笹井議長 まあ、最大公約数はそんな感じで。

テーマはちょっと別にして、講演プラス、ディスカッションにします？ します？ って、テーマに関わるんだけど。

小林委員 時間との兼ね合いですよ。講演だと、どうしても40分とかあれしちゃうと。

笹井議長 これは、発表まで入れるんだ。グループディスカッションに発表まで入れる？

小林委員 共有したほうが、多分。

笹井議長 ですよね。

小林委員 だから、そっちをメインディッシュにしたほうがいいような気が
していて。講演というのはどうするかという。だから、30分ぐら
いでいいよと言ってくれるような人がいれば。

伊丹委員 伊丹です。私1人で三小おやじの会を知っているから思い込んで
いるのかもしれないですけど。小林さん、現状をちょっと話して
いただけませんか。そうすると。

その前に、三小おやじの会って、御存じの方、いらっしゃいます？

皆さん知っていらっしゃる。だったら。であれば簡単な話で、知
っていればいいです。それを、私の意見としては、皆さん御存じで
あれば、小林さんの活動しているところで、しづらい点とか、今ま
で苦労したところ、そんなお話。

それと、もえぎホールということになると、ちょっと実演は無理
かなと思ったんですけども。なかなか今この世の中でああいうお
せっかいをやる大人がいなくなっているのが事実だから、そん
なのでおせっかいというようなことは考えていたんですけども。

小林委員 今の現状で言うと、実は僕、この別紙の西川正さんという方から
のほとんど受け売りなんです。要は、行政とかいろいろな社会の
物事が全部サービス化して、お金を介して提供されるというような
状況になってきて、行政もサービスだと言い出してしまうと、市民
側からすると、お金払っているから、俺、何にもしなくていいよね
って、まず関与しなくていいというイメージが広がってしまう。か
つ、お互いさまで自治会とかで一緒にやっていれば、ま、こういう
ことがあってもしょうがないよねとか、ああ、まあ、じゃという話
になるんですけど、市という、サービスということになって、し
かも俺、税金で払ってるんだみたいな感じになってしまうと、お客
様気質になりますよね。そうすると、粗探しが広がる。

僕らもよくおやじの会の全国サミットで、いろいろみんなで話を
しているときに、何か俺たち、サービスしちゃってない？ という。

地域の仲間として一緒にやるのが大事だよね。お互いさまという部分が大事だったよね。それがだんだんなくなってきて、今サービスになっちゃっているよね。文句は言われる、手伝ってはくれないというところがちょっとあるので、そういったところから抜け出すにはどうしたらいいかというのが、西川さんがいつも言っていることです。

彼は、最初、埼玉の市役所前でイベントをやったんですかね。どんぐりプールをやったりサンマを焼いたり、そういうイベントをやったときに、どんぐりプールが破れました、早く直してよと言われて、サンマがなくなったら、何で俺の分はないんだと怒られる。で、翌年から変えたそうです。僕は全部ボランティアです、ボランティアで持ち寄りでやっています、だから、ごめんなさい、手伝ってくださいと。どんぐりプールが破れたら、すみませんと言ってガムテープを渡して、直してくれますか。サンマ足りないね。足りなそうだ。じゃ、半分ずつにしますかと言って、お互いさまという形でやっていったら、そこに遊び心って大事だよねみたいな話を西川さんがおっしゃって。僕はそれを聞いたときにすごくいいなと思って、それを西川さんの代わりにこの辺で伝道しているみたいな、おやじの会でも言っているみたいな感じなので。

何かそういう世の中の変化というのを一回ちょっと提起した上で、じゃ、今、社会教育とか地域活動とかそれに類するものってどう向かっていったらいいのか。例えば公民館だって、苦情ばかり言われるんでなくて、いやいや、あなたも一緒にやるんですよというふうに持っていけないのかなとか。だって、住民自治でしょ。自治なんて今、やらない人が多いですよ。だから、おせっかいというのも1つお互いさまの中ではみ出てしまったものだったりするので、一緒にできないかなというふうに世の中を持っていくにはどうしたらいいのかという非常に大きな問いがあって、伊丹さんがおっしゃっていたものは多分それかなとは思っています。

じゃ、それ、どうすんのみたいなところはちょっとあって、結構大きな話ではあるんですけど、結構世の中、今、そうになっていませんか。だからボランティアが少なくなっている。PTAには苦情が行く。いろいろサービスすると、多分、市役所とか図書館とかでも苦情ばかり来る。じゃ、一緒につくろうよというふうになってくれないというのはどういうことなんだろうと。何かマインドチェン

ジしていかないとこれからやっていけないよねというところはちょっとおっしゃっていたので。

すみません。そういう問題提起です。

伊丹委員 伊丹です。そうすると、この会議、研修会というのは、6年に1回しか回ってこないわけですよね。

最所生涯学習係長 そうですね、はい。

伊丹委員 基本的には。そうなれば、今までのような講演会だ、あるいはディスカッションだけじゃなくて、小金井らしいものって何だか分からないけれども、とんでもないことをやったほうが小金井らしいんじゃないかなと。

とんでもないというのはちょっと言葉が悪いですけども、あまり学問的にこうだということよりかは、我々か、あるいは市民がバックにある我々としてもいいんですけども、何か今までにないような独自の格好のもの。それを考えたいな。あるいは、考えたいなというか、皆さんのお知恵が出てこないかなというのが私の考え方なんですけれど。

鈴木委員 いいですか。

笹井議長 ちょっと待ってください。それは、例えば実践者の報告みたいのがあったほうがいいという趣旨ですか。

例えばおやじの会のような報告というか、内容をみんなで共有した上で少し議論したほうがいいと。それは実演するかどうかは別にしても、そういうことですか。

伊丹委員 そうですね。例えばおやじの会に頑張ってもらうとか、そういうような。今までにそういう研修会はなかったんじゃないかな。おやじの会に限るわけじゃないですけども。そんなような形のものが欲しい気がしますね。

笹井議長 なるほど。分かりました。すみません。
どうぞ。

鈴木委員

いいですか。テーマはまだ決まっていないんですけど、せっかく小金井市で決められるというところであれば、何度もさっきから最所さんがお話しになっているように、知の循環というところが1つテーマじゃないのかなと思っています。知ってどこにあるのかなという、道端に転がっているわけじゃなくて、人の頭の中にあるというものなので、じゃ、その知を循環させるとかっていうふうにして考えたときに、それ、どういうふうにするんだろうねという、つなぎ方はいろいろあると思うんですけど、別にオンラインでつながったっていいし、直接つながったっていいし。

だから、何らかでやっぱりつながるというところでいくと、この各市が困っている人つなぎじゃないのかなというところなんです。実際、関東甲信越静の大会とか、それからこのブロック研修会みたいなものへ行って話をほかの委員とすると、大体出てくるのは予算、場所、人。どれも足りないよねという話と、それからあと、自分の後を継いでやってくれる人がいないねと。どういうふうにして人を呼べるとか人をつなぐというところは、もうみんなこれ、別にこの第5ブロックにかかわらず、長野の人もそう言っていたし、山梨の奥地の人もそう言っていたし。

だから、これはやっぱり、やり方はどんなやり方でもいいんですけど、講演会があるのか、ないのかとか、それからワークショップのやり方もどういう形でもいいと思うんですけど、テーマを決めるのであれば、この知の循環というところ。第5次計画の知の循環という大きいところへ持ってきて、それで副題というか。じゃ、それは何のためにやるんですかというところで、人つなぎだという。そうすると、知の循環を掲げていない市の人たちも、一番今困っている人をつなぐという方法の知とか、いろいろなほかの自治体の知を持って帰れるということになるんじゃないのかなと思います。それを、もうさっきも言いましたけれど、その場で話して終わりにしてしまうんですけど、じゃ、それで、ブロック研修会で持って帰ったものをもう一回話してもらうとか。

伊丹委員

ですよね。それですよね。

鈴木委員

そうしないと、ここで話して、最後、話のうまそうな人が出て、

その人が何となく、じゃ、2分でお願いしますとか言われて、何かよく分からないまとめを話して、じゃ、お疲れさまでした、さようならって帰って。別にそのときのことはちょっと頭に残っているわけですけど、それで何だったかねというよりは、焼き直しみたいなものがもう一回あったほうが、せつかく社会教育委員が集まって話をする。さっき笹井先生がおっしゃったように、全く白地で何にも関係ない人が来るわけじゃなくて、やっぱりある程度バックボーンがあって社会教育委員に推挙されてきている、自分でなっているという人たちなので、その人たちが話すという意味でいくといいんじゃないのかなと思っています。だから、方法は何でもいいけれど、テーマはそれがいいんじゃないかなと思っています。

あと、さっき小林さんのお話しになっていた、本当にお客化しているというところは、もう僕もこれ、強烈に感じていて。自治会とつながるというのが一番身近だというふうにして、ベーシックではそういうことを考えていらっしゃるのかもしれないですけど、もう自治会なんてどんどん減っていつているし、僕ももう間もなく60歳ですけど、それでも若手なんて言われているぐらい。ええって。

それで、もう本当にそういう人のあれもあるんですけど、やっぱり、みんなが入らなきゃ、入るのが嫌だというのは、先人たちの最大限のべき思考なんです。こうあるべきとか、こうやってもらわないと困るとか。こういうふうにするもんなんだよというのを言われてしまうと、いや、それはもっと違うやり方もあるんじゃないですかねというのが。結局、会社へ行って勤めて帰ってきて、組織の中にいて、自分がゆっくり帰ってきて、地域でまたその組織の中のことをやりたい人なんていないと思うんですよね。おっしゃるとおりですなんて。だからもう。

もう一つだけ、すみません、言わせてください。小林さんのおっしゃっていたお客化の一番典型的な例でいくと、もう50回やった、わんぱく夏祭りというくじら山でやる祭りがあって、これも最高に面白かったんですけど。夜中、自分たちでテントを作って泊まったりとか、本当に面白かったんですけど、これはやっぱりもう来る人がどんどんお客化してしまっていて、何でできないんだとか、去年のチラシはこれがあるのに何でないんだとか、そんなことを言われたりとか。ひどい人になると、もう暑くなるから、暑くなる前に大

きい滑り台を解体しようぜと僕らが解体していると、どこから来たのに、滑り台を最後1回だけ滑らせてくれよと言うんですよ。もう解体している途中だから、危ないから滑らせてあげられないんですよ。と言ったら、どこから来たのというので、子供がかわいそうだと言って。これ、誰がやっているんだ、何がなんだというふうな。現実にはそういう人がいるので。

そうすると、もう本当に気がそがれる。もういいや、やらなくてと。だから、いろいろな地域のつなぎとかお客化の中でいくと、本当に自治会というところのべき思考とか、あと、それにも関わってきますけれど、本当に気をそぐエキスパートみたいな人がいる。あんな、気をそぐので食っていったほうがいいぜ、まじでみたいな。そういう人がいる。だから、新しい人が入ってこないし、入ってきてもちょっととなってしまうというのがあるから、テーマもやり方も何でもいいと思うんですけれど。

ごめんなさい。テーマに関しては、やっぱり人つなぎとか知の循環がお題にあって、つなぐにはどうするの、人つなぎだよね。そこを何かいろいろなところでやっている、いいあれ。その中に、どういう形で人をリクルートしてきていますとか、それからあとは、お客さん化しないようにどんな工夫をしていますとか、そんな話を幾つかサブタイトルみたいなあれで告示したら話しやすいというところに、このループリックにならないですかね。

と、何か思いました。すみません。取り留めがなくて申し訳ない。

笹井議長

ありがとうございます。

今まで出た意見に関して、まだあまり発言されていない方は、ちょっとどう思いますか。藤森さんとか渡邊さんとか北澤さんとか池田さん、どう思いますか。

池田委員

どれがいい、講演会がいいとかじゃなくて、鈴木さんがおっしゃったテーマ的なことになってしまうかもしれないんですけど、いろいろな方のお話を伺っていて、かなり外れているかもしれないんですけど、別紙の小林さんの最後のページの、児童館があるけれど若い人につながっていないみたいなのが、それは本当に私も感じて。だから、公民館が、小金井市の公民館で検索すると、施設も古くて、あまり人が近寄りたくないような感じなんですけれど、

だけど、公民館ありきじゃなくて、若い人が何かやろうと思ってできる場所が公民館を経由してできるとか。公民館でやりますじゃなくて、公民館を経由してやる。逆にしたほうが、若い人が来るというか利用するかなとか。

あと、若い人たちを巻き込まなくてもいいんですけど、興味を持ってもらうには、若い人たちから、先ほどの問題提起じゃないけれど、問題提起してもらったようなことをして、今度また藤森さんの話とかいろいろつながるんですけど、ちょっとインターンシップ的な、これをすると、中高でもいいんですけど、小学校でもいいんですけど、将来的にちょっと何か視野が広がるような。企業とかでインターンシップするということが大きくなってしまうので、地域がインターンシップを提供できるのか、小金井市を介した、公民館を介してみたいな場所に公民館がなったら、もうちょっと若い人が来るというかつながるかなとか。分かりますか。

笹井議長

よく分かります。

池田委員

もし話合いする、ディスカッションするとしたら、そんな感じで、もっと具体的な内容について、漠然とじゃなくて。だから、例えば私が今思ったのは、各市に持って帰ってもらうときに、じゃ、公民館はもうクールな場所じゃないから、クールな場所にちょっとでも近寄らせるためにどう使うかを……。何かだんだん分からなくなってきた。

鈴木委員

いや、分かる、分かる。公民館がクールな場所になるか。

池田委員

クールな場所に変えるには、公民館じゃなくて、何かクールなことをしようと思ったら公民館をスルーしないとできないみたいな場所にしたら、公民館の立ち位置も雰囲気も、建物自体は変わらなくても、もうちょっとクールな場所になってきて、もうちょっと若者が利用したら、もうちょっと活性化するかなと思ったんです。だから、それには、ちょっとインターンシップ的な要素もあったほうが。それも、私たち大人が提供しなくても、若い人たちから湧き上がってきたものでもいいし、先ほどの若い子たちがわいわい話合って、そのほうが広がる、私たちの予想外のところへ広がるかなと

いう。そういう地域のつながりを、大人とか年取った人たちが無理やりつなげるんじゃないくて、自然的につながりが出てくるような、仕組みをつくっていますよと公言しないで、さりげなく仕組みをつくって、そこに寄らせる。ちょっと抽象的ですかね。

笹井議長 いや、分かります、分かります。

池田委員 そんな感じに思います。

笹井議長 それは本来、場の役割なんですからね。場の役割が固定化してしまっていて、一定の役割を持っている人以外は全部排除してしまっているところがあって、かつてはもっと柔軟に公民館に集まって、そこを通して情報が流れていくというか、一人一人つながっていくということだと思うんですけど。そういう意味では、鈴木さんの御提案の一つの論点だというふうにも話を聞いていたんですけども、そういう理解でいいんですよね。

池田委員 同じではないですけど、いろいろな方のお話を伺って、ちょっとだけ思ったこと。

笹井議長 分かりました。
ほかの皆さんも、今のことに関連してもいいですし、そうじゃない意見でも構いませんので、どうぞおっしゃってください。

北澤委員 北澤です。私、鈴木さんの言われていること、すごく共感できるし、そのテーマでやったら参加してみたいなと思いました。だとするならば、その前段の講演というか、その導入のところが何かすごく大事というか。でないと、それぞれが何となくもやっとなんとか勝手言ってしまうと思います。

鈴木委員 ばらけたものになってしまう。

北澤委員 はい。だから、その講演のところというか、要はきっかけというか、ディスカッションのきっかけのところをうまくつくっていかないと、ディスカッションが何となくぱらっと、何かそれぞれの感

想的な。何か前向きな、こういうことができるのではというふうになればいいんだけど、ただ単に日々の困っていることを言い合って終わるみたいな、そういうふうになりかねないかなという心配もあるので、そのこのところは、具体的に講師も提案されているし、その講師も含めて、こういうことを言ってくださいというような、そういうところが必要なのかなと思いました。

笹井議長

なるほど。ありがとうございます。ほかにどうでしょう。渡邊さんとか藤森さんとか。渡邊さん、どうですか。ほかにどうでしょうって、今のことにに関して御意見でも構わないし、ほかのことでも構いません。

渡邊委員

じゃ、渡邊です。本当に皆さんのおっしゃっている、共感することばかりなんですけれど、難しいだろうなと思うんですよね。だから、今こんなに一生懸命やっている人たちが、これから多くの方たちがこれに参加してくれるようになっていくにはどうしたらいいんだろうかって。こんなに一生懸命やってきている人たちが、ここで今そういうところに至ってしまっている。恐らくこの小金井だけじゃなくて、本当に全国そうなんだと思うんですけれど。一番難しいテーマなのかもしれないし。でも、そこに一縷の希望を見いだしたくて参加してくださる方もいっぱいいると思うので、大いに議論して、やっぱり一定の方向性といいますか、私たちがやっていることは間違っていないということで、さらにこうしたらいいんじゃないか、ああしたらいいんじゃないかという思考になって帰っていきける場にしていくというのはすごくいいと思うんですけれど。

やっぱり、本当に北澤さんがおっしゃるみたいに、よく分かるということだけで終わってしまったら、せっかくのこの会の意味も薄まってしまうと思うので、そこをどうするかというのは本当に難しいだろうなと思うんですよね。言われていることは本当にそのとおりだけれど、じゃ、それをどうやって乗り越えるのということがやっぱり難しいところにあるわけで。またそれはその市その市によっても違うと思うし、児童館、公民館といっても、小金井みたいに場所がないところではなかなか。いっぱいあるところもあれば、ないところもあったり。だから、本当にその辺の捉え方というのがある程度の方角に向かっていくのかなという心配はちょっと。そんな

こと言っただって、うちは無理よというふうになってしまったら何にもならないし、その辺のところで、どのように引きつけていけるか。

それには、発表する方やとてもすばらしい講演から、鈴木さんがおっしゃっていた、こういうふうになんか今に至っているというようなお話もありましたし、また、小林さんもそのようにおっしゃっていたので、そういったところで気づきを与えてくれて、みんながそうだね、頑張ろうというふうになっていくような方向性が見えめるといいなと。漠然とですけど、そういう思いがとてもしますし、今じゃなきゃできないということを考えると、まさに小林さんや鈴木さんがおっしゃっているところに焦点を当ててやっていくことについては、私も賛成だなと思います。

笹井議長

ありがとうございます。1つ越えられる、越えていくための一つの事例というか、示唆の事例として三小おやじの会をやられたと私は理解しているんですけども。そうなんですか、小林さん。

小林委員

いや、事例ということでもない。そんな大げさなものじゃないです。

伊丹委員

いやいや、そんなことはないです。

笹井議長

だから、それで全てカバーしようというんじゃないで、そこから得られる、示唆されるものがすごく多いんじゃないかって。

小林委員

やっているうち、そういう壁にぶち当たりましたみたいな話なので。やっていて、一生懸命やってしまうじゃないですか、おやじの会だから。子供たちにいいところを見せたくてやるじゃないですか。すると、どんどんサービス側にいくんですね。どんどん苦情が出てきて、何かメンバーだけ忙しくてあれだ。最近、何をしているかという、ごめんなさい、僕らは七、八人ぐらいしかいないからできませんって、みんなに声をかけますねみたいな。手伝ってみたいな感じで。その場だけだったら手伝ってあげるよという人はいっぱいいるので、その人たちが手伝いやすいように声をかけたりとか、ありがとうと言ったりとかというのを一生懸命やっていますみたいな話はできるし。

例えば縁日でという話をしても、おやじメンバーだけ出るんじゃないで、じゃ、小学生のボランティアを集めようとか、中学生にやってもらおうとかと言って。自分たちだけでやろうとしないで、誰かにこういうのやらない？ と声をかけたら、ああ、やりたい人いるんだね。そういう感じのことはやっていますけれどね。じゃ、それがうまくいっているのかといたら、本当にうまくいっているかという、結構メンバーからは、やっぱりしんどいよという話が出てくるし、全然解決しているわけじゃないんだけど、その中で結局、苦闘していますという話にはなると思います。

笹井議長 そうですね。まだ何というか……。

伊丹委員 すみません。

笹井議長 どうぞ。

伊丹委員 ちょっとポイントがずれるんですけど、先々月、5月末に文化協会がフェスティバルをやりまして、そこで写真の仲間がアフリカへ行ったんですよ。アフリカの動物たちを撮ってきて、それが何千枚あるので、じゃ、それを発表しようよということで、1階のフロアに移動式パーティションで60点ぐらいですかね、出して、あと、私がデータをいただいて、ポストカードを1,000枚プリントしまして、御来場者に一枚一枚差し上げるという企画を。それは、最初の目標としては、土日になれば子供たちが来るから、子供たちは多分ライオンだとかキリンだとか象さんが好きだろうからということで、1,000枚のうち500枚ぐらいは土日用に残した。残すように私は指示を出したんですけども、結局、約3,000名からの入場者がありました。

あつたんですけども、文化協会としては、それを餌にして小ホールの方の工芸とか絵画とか、そっちまで来て影響してくればありがたいなと思ったんですけど、なかなかそうじゃなくて、アフリカの写真だけ見て帰っちゃった。それで、子供が本当に1割も来なかった。考えている企画と実践がまるきり違っちゃって、もうがっかりするやら、何のために細々した年金の中から1,000枚のプリントをしたかなんていって、自分自身、がっかりしてしまっ

てはいるんですけれども、それはいい勉強したなど。じゃ、次回、何かがあったら、またそういったことも含めて。

それで、何で子供がアフリカの動物の写真に来ないんだろうかとある人に聞きましたら、今、6時まで学童だと。会場を7時まで開けていれば来るかもしれない。そうすると、我々は1週間、朝10時から6時、7時まで、ちょっと体力的に無理でもあるし、文化協会の構成しているメンバーが平均年齢がかなり高いですから、それはもう無理な話だなと思って。

ということで、今のお話の流れとしてちょっとポイントがずれたかもしれませんが、やっぱり希望する企画と実践というのが違ってくる。それをどういうふうに企画の段階で予測して方向転換させるかという考え方を持てればよかったんですけれども、どちらかという、一本気で突っ走ってしまった。その結果が。まあ、結果オーライだったですけれどね。大人は3,000人と。あの宮地楽器で1週間で3,000人の人を集められたということは自信にもなりましたけれども、本来の目的はもっと子供を中心にしていたという話でございます。

笹井議長

ありがとうございました。

藤森さん、今までの議論とか、あるいは全く別の話でもいいんですけれど、何かありますか。

藤森委員

藤森です。ちょっと別の切り口でいくと、さっき伊丹さんが言っていたとおり、小金井市らしさみたいなものを、小金井には6年に1回しか回ってこないんだから、出したほうがいいんじゃないかという話があったんですけれど、一方で、去年発表した国分寺でもともと会社員時代に働いていたんですけれど、国分寺が冒険遊び場の会の武藤さんが講演をされていて、国分寺も要は子供関係に力を入れていて、冒険遊び場の会としてプレイステーションという場所を、無料でというか、市と共同事業みたいなのをやっていて、子供の遊びを無料でつくっていますとか、こんな活動していますというのも、あれも国分寺らしさがあったということで、その発表はそれでいいんですけれど、らしさを出したときに、ほかの自治体から、主催する市の自慢じゃないんですけれど、ここがいいんだぞというのを見にわざわざ行かなきゃいけないのか、面倒くさいと思う人のほうが多

いんじゃないかなと個人的には思っていて、だとしたら、行って、何か行ったらめっちゃいい情報が手に入ってラッキーだったぜというほうがやっぱり来るだろうと思うんですね。

僕、さっきも言いましたけれど、自分が起業して仕事をして思ったのは、会社員時代はめちゃめちゃ会社からいろいろな研修を受けさせられて勉強して、役に立ったこともあったんですけど、一番役に立ったのは僕を働かせて利益を上げた会社であって、僕は、自分が事業をやり始めたら、あ、こんなことを勉強するとこんなことができるんだぞとなって、お金を稼ぐためにはやっぱりお勉強しなきゃいけないし、やったら今、自分の事業もある程度軌道に乗ってきて、そうするとますます勉強したくなってくるんですよ。これも自分でできるようになりたい、これも自分でできるようになりたい。

勉強するというのは、豊かな人生の実現というのを何をもって言うか分からないですけど、やっぱりお金を稼がなきゃいけない時代にどうしてもなってきたしまっている。なので、ボランティアできる人というのは、お金に困ってなくて、そんなに。困ってなくて、お金はもう十分あるからさ、何かもっとほかのことやりたいんだよなという生きがいくつ。お金が要らないというか。なので、ボランティアできるんですけど、一方で、ボランティアじゃ続かない、ボランティアをやって、お金をもらえなくて、こんな苦情を言われたらやってらんねえよという人がやっぱり増えてくる世の中じゃないですか。となると、この生きがい4原則の中に報酬が得られるという。要は、サラリーマンとして生きていかななくても、ちょっとお金稼げるんだよ、あなたの得意技と好きなことを生かせばとなると、二足目のわらじとして、いやいや、やってもいいかなとかという。俺、もしかしたらこれの才能あるのかもとか。例えば、普通のお店だと2,000円ぐらい取るようなものを500円でいいよとかって言ったら、お客さんつくかもみたいな発想を持つ。

僕はもともと家が農家でして、大昔、例えば社会教育の公民館ができた頃って、農業が日本の集落の8割とかのときって、みんながお金を手に入れた。売るものを持っていたんですよ、百姓も。野菜を育てて、果物を育てて。百姓として生活していく中で、それ以外にもっと何か、例えば洋服を作るのが得意な人とか、何かをするのが得意な人みたいなのが公民館に集まって、みんなで知識を教わる。お料理が上手なおばあちゃんから、田舎に嫁いできたお母さんがお

料理の仕方を教わるとか。で、上手になるとか。そういう農業で生活していく以外のもっと新しい知識を学ぶことで、やっぱり生きがいになるし、収入も得られるし、副業もできるみたいな意味で、学んで楽しいし、お金も稼げるし、生活も豊かになるし、これはもう学ばないなんてあり得ない。学んだほうが絶対にいいという時代があったと思うんです、昔。

今、みんなサラリーマンじゃないですか。だから、自分の会社がもうかるための方法だけを会社から教え込まれていて、もっと学ばないと実は全然違う学びがあったのかとか、その学びを生かせばもっと自分も社会で何かできるんじゃないとかという考えを持つには、やっぱり、お金を稼ぐじゃないですけど、こういう活動いいよ、みんなでもっとボランティアを盛り上げようよみたいのは、話としてはいいんだけど、実際、その後、じゃ、ボランティア活動をし始めるかといったら、し始めないんじゃないかなと思って。

鈴木委員 できる人が限られる。そのとおり。

藤森委員 なので、何か1つお土産というのは、俺、もしかしたらちょっとビジネスの才能あるかもみたいに思って帰ってもらったほうがいいのかもというのが、ちょっと自分の計画の中にはあったので。

すみません。だらだらと話したけれど、2点あって、小金井らしさを出すというのは、ほかの自治体になって見ていると、らしさを出しているところが結構あって、それを見に行かせられるのが嫌だなと思う人もいそうな気がするので、どちらかというと、来る人が、俺、これに行ったら絶対お土産を1つ持って帰れるから、得するから行こうという企画のほうがいいんじゃないかなというのが1つと、社会教育、教育の目的が、自分の人生が豊かになるの中に、やっぱり学んで楽しいよだけだとちょっと弱いかな。稼げるという言い方は変ですけど、要は、自分の力でお金を生み出せるかもしれないという。

鈴木委員 来て得する社会教育みたいな。

藤森委員 そうです。どんな言い方がいいのか分からないですけど、やっぱり……。

鈴木委員 大事だよ。

藤森委員 みんな、ほとんどサラリーマンというか雇われて働いている人が多いので、そうじゃない生き方とか、そうじゃない何か。要は、自分にも、自分の力で生きていくじゃないですけど、という方法があるのかなみたいな、今まで見えていなかった道がちょっと見えてくるみたいな研修があると学びたくなるかなと思いました。伝わったかどうか分からないですけど。

鈴木委員 伝わった。だって、それ、得られるものはキャッシュじゃなくてもいいということですよ。

藤森委員 キャッシュじゃなくていいんです。

笹井議長 だから、価値。価値をクリエートするといって、クリエートは、経済的価値だけじゃなくて、非経済的な価値もある。ボランティアって基本的には、報酬が得られるということは、つまり経済的な価値じゃなくて報酬が得られるというのは原理的に持っているわけですよ。だから、経済的なものか、お金か、あるいは別の精神的な、感謝されるということとかということも含めて考えると、やっぱり活動というのは価値を生み出すものなんだと思いました。

藤森委員 そうです。なので……。難しいな。贈与ってあるじゃないですか。贈与、贈物として。贈物としてあげる。要は、別に何かお金を欲しいわけじゃないよ、もう一方的にあげてしまう、贈与。でも、贈与すると、もらった側は、返報性の原理といって、何かお礼、お返ししなきゃいけないという気持ちになってしまって、何かをお返しする。等価交換じゃなくて、何かをお返しする。互酬になる。

笹井議長 互酬性というの。

藤森委員 はい。なので、贈与していったら、結局、何か返ってくる。結局、互酬になるじゃないですか。そういう、大昔は当たり前にあった、うちも実家へ帰ると、家の庭に籠で野菜が置いてあって、採れ過ぎ

たから勝手に置いていくよといって勝手に置いていくんですよ。そうすると、うちの親は、その籠を返しに行くついでに、家の野菜を入れて勝手に置いてくるわけです。頼んでいないのに物を交換し合うという習慣が田舎にはまだ全然あって、東京って、全部お金。お金を払わないと基本的にサービスが受けられなかったり、無料で受けられるサービスは何かお客様っぽくなってきてしまっているところを、やっぱり贈与とか互酬みたいなものを、ちょっと説明がうまくいかないですけど、そういうものを体験する。そういうものがあるんだということを学ぶ。ちょっとあまり言い方が分からないですけど。何て言えばいいのかな。

鈴木委員

いいですか。鈴木です。いや、もうすごく共感できて、藤森さんの話は共感できていて、小林さんが言うように、もう本当に天然ものという人たちっているじゃないですか。心がもうすばらしくて、どうすればこんな人間に育つんだろうという。だけど、そういう天然ものにだけ頼っていても、天然ものもそれぞれ生きていかなきゃならないし、事情もあるので。今お話しになっていたみたいに、ボランティアできる人は、学生のうちだから当てがあってボランティアができていて時間もあったということかもしれないけれど、就職してどこかへ行くとかという形になったら、その人はいなくなってしまうわけで。じゃ、また天然ものが出てくるかというと、天然ものは出てこない可能性もあるから、養殖というような話をされているんだと思うんですけど、やっぱり何か得るものがないというのは、あまりプライオリティーの高いところに置いてもらえないようになりつつありますよね。

うちも今、路地に住んでいるんですけど、路地の目の前の人と路地の隣の人はやっぱり地方の人なんですけれど、塩を貸してくれとかしょうゆを貸してくれとかって、うちはいまだにあるんですよ。うちの娘が鍵を忘れていっちゃったとき、その人の家に置いてもらったりとか。そうすると、どこから送ってきたから何をくれるとかって、まさに器をもらったときに、その器に何を入れて返すか。日々のそういうのがあるから、多少そこでいろいろなそごがあっても、本当にうまく人間関係が回っているんだよねというのは感じる場所なんですよね。そこで僕は別に利益を得ていないし、何か経済的に豊かになっているわけでもないんだけど、ただ、だけど僕

はもうあそこが好き。

だから、そういう点でいろいろなものを得ていくんだろうなと思います。それをいろいろな人が感じられるようになったら、それは相当ハッピー。何か得られるものがあるって持って帰れるなんていって、その視点で今度、自分の町を見られるようになるので、すばらしい考え方だと思います。能書きだけいっぱい聞いて帰って、前回の報告を誰かが取りまとめて、事務局が取りまとめて、はい、じゃ、今日の議題へ行きましょうというよりは、よっぽど一人一人の心に残るんじゃないかなと思います。

すみません、僕も全然取り留めのない話で。ただ、今聞いていての意見でした。

笹井議長

ありがとうございました。

このブロック研修会のテーマから、すごく本質的な社会教育とか、ボランティア活動とか、お金を稼ぐこととか、おやじの会とか、いろいろな本質に話が飛んで、話はすごく面白かったんですけども、時間の関係もあって、ちょっとまとめさせてください。まとめられるかどうか分からないけれど。今のだったら、例えばパネルディスカッションをやっても面白いのかなと思って、それぞれみんな一言言っていてもらっていいわけだからと思っていましたけれど、ちょっとそれを考えさせていただいて、次回の前に何らかのまとめをメールか何かで送らせていただいて、それでまたそういう意見を聞いて、必要があれば、できればなんですけども、オンラインでちょっとやり取りができればなとかと思っております。そんなことでお許しいただきたいと思います。

最後に、管外視察の件は、また今度で大丈夫。

最所生涯学習係長 また今度にします。今日は少しブロック研修会だけでお願いします。

笹井議長

分かりました。じゃ、終わりにしてしまってもいいの？

最所生涯学習係長 そうですね。企画書の件でまた何かあればというところで、もしまとめが少しあればまとめていただいて、もう終わりで大丈夫です。

笹井議長

分かりました。

すみません。時間の関係で、この辺にして管外研修の時間かなと思ったんですけど、それを次回に回させていただいて、ちょっと時期がずれますけれども、管外研修をやるという方向で、皆さんの御希望一覧表が資料５にありますけれども、この辺についてまた別途議論していきたいと思いますので、お許しいただきたいと思います。

今回は８月ということなので、それまでに今のブロック研修会の内容については、取りあえずの案をつくらせてもらって、それで皆さんにまた御紹介したいということですので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、そんなことで、議論はこの辺にしたいと思いますけれども、最後、事務局から何かありますか。

最所生涯学習係長 次回もよろしくお願いします。

笹井議長

８月２１日だそうです。よろしくお願いします。

じゃ、そんなところで今日はお開きにしたいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。

—— 了 ——